敬語（尊敬語）①

話をしたり文章を書いたりするときに、話し相手や、話題の中に出てくる人などに対して、尊敬（そんけい）の気持ちを表すために、必要に応じてていねいな言葉づかいをします。

これを敬語（けいご）といいます。

相手や相手の動作などを敬（うやま）う敬語（けいご）を尊敬語（そんけいご）といいます。

敬語（尊敬語）②

ふつうの言いかたを尊敬語（そんけいご）に直せるようにしましょう。

- 言う→おっしゃる
- 行く、来る、いる→いらっしゃる
- する→なさる
- 食べる→めしあがる
- 見る→ごらんになる

「お……になる」という形で尊敬語（そんけいご）にすることができます。

- 読む→お読みになる
- 休む→お休みになる

敬語（尊敬語）③

助動詞（じょどうし）の「れる・られる」を使って、尊敬語（そんけいご）にすることができます。

- 向こうから先生が来る。→　…来られる
- 先生が話していたのは、このことです。→　…話されていた
- 社長はもう帰りました。→　…帰られました
- 田中さんも君を見送るそうです。→　…見送られる

尊敬語（そんけいご）を正しく使えるようにしましょう。

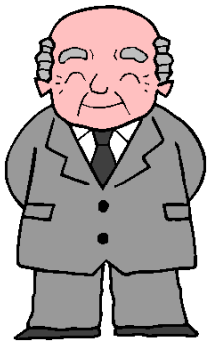
- 先生も来るそうだ。→　いらっしゃる・おいでになる
- もうその本を読みましたか。→　お読みになられましたか
- あなたの言うことは正しい。→　おっしゃる
- お客様は起きましたか。→　起きられましたか

敬語（けんじょう語）①

話をしたり文章を書いたりするときに、話し相手や、話題の中に出てくる人などに対して、尊敬（そんけい）の気持ちを表すために、必要に応じてていねいな言葉づかいをします。

これを敬語（けいご）といいます。

自分のことをへりくだって言うときに使う敬語（けいご）をけんじょう語（けんそん語）といいます。



ふつうの言いかたをけんじょう語に直せるようにしましょう。

- 行く、来る→まいる
- 言う→申す・申し上げる
- する→いたす
- 食べる、もらう→いただく
- 見る→拝見（はいけん）する
- いる→おる

敬語（けんじょう語）②

「お……する」という形でけんじょう語にすることができます。

- 迎(むか)える→お迎(むか)えする
- 答える→お答えする

けんじょう語を正しく使えるようにしましょう。

- わたしも行きます。ーまいります
- かばんを持ちます。ーお持ちします
- わたしがします。　ーいたします
- 写真を見ました。　ー拝見(はいけん)しました

敬語（ていねい語）①

話をしたり文章を書いたりするときに、話し相手や、話題の中に出てくる人などに対して、尊敬（そんけい）の気持ちを表すために、必要に応じてていねいな言葉づかいをします。

これを敬語（けいご）といいます。

話全体をていねいにした、あらたまった言いかたをていねい語といいます。

ていねい語にするには、ふつう、「です」「ます」「ございます」をつけます。

- 行く→行きます
- する→します
- 健康だ→健康です
- 言う→言います
- 本だ→本です
- おはよう→おはようございます

敬語（ていねい語）②

「お」「ご」をつけて、ていねい語にすることができます。

- 飯→ご飯
- 茶→お茶

ていねい語を正しく使えるようにしましょう。

- わたしも行く。→ 行きます
- かばんを持つ。→ 持ちます
- わたしの弟だ。→ 弟です
- かしを食べる。→ おかしを食べます

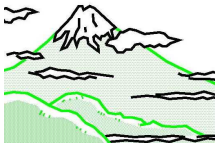
名詞①

人、物、ことがらの名前を表す言葉を名詞(めいし)といいます。

名詞(めいし)には次のような種類があります。

- ふつう名詞(めいし)：ふつうの物やことがらの名前を表す。
  学校・友だち・先生・希望・成績……

- 固有名詞(こゆうめいし)：地名や人名など、特定のものの名前を表す。
  日本・アメリカ・富士山・エジソン・キュリー夫人……



- 数詞(すうし)：ものの数量や順序を表す。
  １つ・六番・千円……

名詞②

文の中で、名詞(めいし)を見つけられるようにしましょう。

わたしは、日本で生まれて、アメリカで育ちました。

二年前に帰ってきたとき、日本はとても人が多いのでびっくりしました。学校では、日本語がわからないので、とてもこまりましたが、先生や友だちがやさしく教えてくれました。

でも、時々アメリカの友だちや広い家がなつかしくなります。

代名詞①

人や物の名前のかわりとして使われる名詞を代名詞といいます。

- ぼくは東京に住んでいます。ここにはたくさんの人がいます。
  自分の名前のかわり　　「東京」のかわり

- 「花子さん、君はめずらしい切手をもっているそうだね。」
  「花子さん」のかわり

- 「はい。これもそのうちの一枚です。」
  「切手」のかわり

代名詞②

文章の中で使われている代名詞（だいめいし）が何を指しているのか、考えましょう。

ぼくは、きのう家族でキャンプに出かけました。
自分の名前のかわり

そこは家から車で一時間ぐらいのところで、近くには川が流れ、
キャンプをしたところ

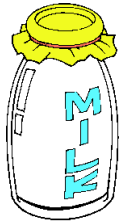
魚がたくさんつれました。どれもまだ小さくて、つり終わったあと
つった魚

で、みんな川へ帰してやりました。
つった魚

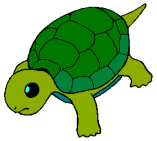
動詞①

人やものごとの動作などを表し、言い切ったときにウ段(だん)の音で終わる言葉を動詞(どうし)といいます。

たとえば、「走る」「泳ぐ」「起きる」「歯べる」などが動詞(どうし)です。
いろいろな動詞(どうし)を覚えましょう。



- いそいで行く
- お茶を飲む
- テレビを見る
- サッカーをする
- 毎日飲む牛乳(ぎゅうにゅう)
- のこのこ歩くカメ
- 歌う少女
- 兄が乗る自転車



動詞②

次の言葉を言ってみると、最後はウ段の音になります。
このような言葉が動詞です。

・生きる　・使う　・取る　・にげる　・勝つ

○　動詞と動詞ではない言葉を見分けましょう。

さわやか（動詞ではない）　飛ぶ（動詞）

知る（動詞）　細い（動詞ではない）

増える（動詞）　とても（動詞ではない）

動詞③

動詞(どうし)のあとにほかの言葉が続くと、動詞(どうし)の形が変わります。

読む

・読
- 読ま・ない
- 読み・ます
- 読む。＜言い切りの形＞
- 読む・とき
- 読め・ば
- 読も・う
- 読め。＜命令の形＞

起きる

・起
- 起き・ない
- 起き・ます
- 起きる。＜言い切りの形＞
- 起きる・とき
- 起きれ・ば
- 起きよ・う
- 起きろ。＜命令の形＞

動詞④

文の中で、動詞(どうし)のもとのかたちがどのように変化しているか、考えてみましょう。

待つ

- もうしばらく待ちましょう。
- あまり人を待たせるのは、よくない。
- 一時間待っても、山本君は来なかった。
- 人を待つ間は、長く感じられる。
- 少し待てば、雨もやむだろう。

泣く

- 泣かないと言ったんだから、泣いてはいけない。
- 泣きたいだけ泣けばいい。
- ひとりになったら、思い切り泣こう。

形容詞 ①

ものごとの様子を表して、言いきったときに「イ」で終わる言葉を形容詞（けいようし）といいます。

たとえば、「美しい」「暑い」「速い」「よい」などが形容詞（けいようし）です。

いろいろな形容詞（けいようし）を覚えましょう。

- うさぎは白い。

- 月が明るい。

- 来るのがおそい。
- この野菜は安い。
- 寒い季節になった。

- 父の大きい車
- 悪い知らせ
- 楽しい遊び

形容詞 ②

次にある言葉は人やものごとの様子を表し、最後が「イ」で終わっています。このような言葉が形容詞(けいようし)です。

- 広い
- 小さい
- かわいい
- 黒い

○ 形容詞(けいようし)と形容詞(けいようし)ではない言葉を見分けましょう。

こわい（形容詞(けいようし)ではない）　浅い（形容詞(けいようし)）

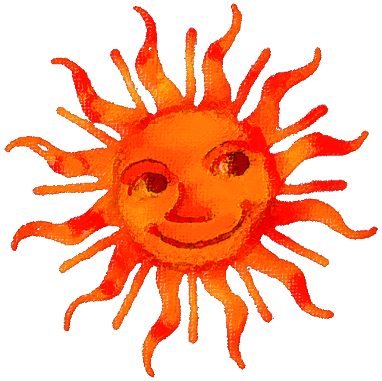
静かだ（形容詞(けいようし)ではない）　たいへん（形容詞(けいようし)ではない）

切る（形容詞(けいようし)ではない）　家（形容詞(けいようし)ではない）

やさしい（形容詞(けいようし)）　すずしい（形容詞(けいようし)）

形容詞③

形容詞（けいようし）は、あとにほかの言葉が続くと形が変わります。



暑い

- 去年の夏は、特別暑かった。
- ぼくは暑いのは苦手だ。
- 暑ければ、上着をぬぎなさい。
- そんなに着ていたら、さぞ暑かろう。
- 今年の夏も暑くなるかなあ。

形容詞④

文の中で、形容詞（けいようし）の元の形がどのように変化しているか、考えましょう。

- 苦しくとも、もう少しがまんしよう。
- きょうは、楽しいことがたくさんあった。
- 悲しければ、思いきり泣きなさい。
- マリーの母はいつもやさしい人です。

形容動詞 ①

人やものごとの様子を表して、言い切ったときに「ダ」で終わる言葉を形容動詞(けいようどうし)といいます。

たとえば、「静かだ」「おだやかだ」「元気だ」などが形容動詞(けいようどうし)です。

いろいろな形容動詞(けいようどうし)を覚えましょう。

- 雪がきれいだ。
- 気候が温暖(おんだん)だ。
- 波がおだやかだ。
- 弟はじょうぶだ。

- すこやかな暮(く)らし
- はなやかな衣しょう
- にぎやかな町
- 楽な仕事

★ 形容動詞(けいようどうし)のあとに名詞(めいし)がつくと、「ダ」が「ナ」に変わります。

形容動詞②

次にある言葉は人やものごとの様子を表し、最後が「ダ」で終わっています。このような言葉が形容動詞（けいようどうし）です。

- 健康だ
- さわやかだ
- 変だ

○　形容動詞（けいようどうし）と形容動詞（けいようどうし）ではない言葉を見分けましょう。

こわい（形容動詞（けいようどうし）ではない）

浅い（形容動詞（けいようどうし）ではない）

静かだ（形容動詞（けいようどうし））

たいへん（形容動詞（けいようどうし）ではない）

切る（形容動詞（けいようどうし）ではない）

きらいだ（形容動詞（けいようどうし））

まじめだ（形容動詞（けいようどうし））

すずしい（形容動詞（けいようどうし）ではない）

形容動詞③

形容動詞（けいようどうし）は、あとにほかの言葉が続くと形が変わります。

静かだ

- その部屋は、静かだった。
- ぼくは静かなのが好きだ。
- 静かならば、よい。
- その町は静かだろう。
- 静かにならないかなあ。

形容動詞④

文の中で、形容動詞（けいようどうし）の元の形がどのように変化しているか、考えましょう。

- いやでも、もう少しがんばろう。
- 去年は、たいへんなことがたくさんあった。
- 好きならば、もっとめしあがれ。
- 早く元気になってね。

感動詞 ①

感動を表したり、人に呼(よ)びかけたりするときに使われる言葉を感動詞(かんどうし)といいます。

感動詞(かんどうし)は、文の中で、主語にも述語にも修しょく語にもなりません。

「やあ」「おや」「まあ」「はい」は感動詞(かんどうし)です。

- 「ねえ、この本、もう読んだ。」
- 「おや、今日は早いね。」
- 「はい、今行きます。」
- 「まあ、きれいな花ですね。」

感動詞②

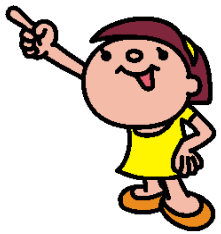
いろいろな感動詞（かんどうし）を覚えましょう。

- 「ねえ、ここに置いたわたしの本知らない。」
- 「あなたが田中さんですか。」「いいえ、ちがいます。」
- 「これはわたしのかいた絵です。」「まあ、すばらしい。」
- 「ひさしぶりだねえ。」「やあ、君も元気だったかい。」

感動詞 ③

感動詞(かんどうし)には次のような種類があります。

- さようなら、また明日ね　　あいさつ
- うん、ぼくも行くよ。　　応答
- ああ、おどろいた。びっくりさせるなよ。　　感動
- おい、ちょっと待ってくれ。　　呼(よ)びかけ



副詞 ①

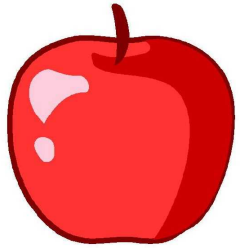
に動詞、形容詞、形容動詞の前にきて、それらを修しょくする言葉を副詞といいます。副詞は、動詞、形容詞、形容動詞のように、形が変わることはありません。

「とても美しい」「まったくわからない」の「とても」「まったく」は副詞です。いろいろな副詞を覚えましょう。

- にわかにあたりが暗くなった。　「暗くなった」を修しょく
- お客さんがさっぱり来ない。　「来ない」を修しょく
- 川の水がどんどん増える。　「増える」を修しょく
- もしひまならば、遊びにいこう。「ひまならば」を修しょく

副詞 ②

いろいろな副詞（ふくし）を覚えましょう。



- この　りんごは　とても　あまい。
- おおかみは　いきなり　えものに　とびかかった。
- ぼくは　母が　帰るのを　じっと　待っていた。
- すずしい　風が　そよそよと　ふく。

副詞 ③

副詞(ふくし)が　どの言葉を修しょくしているか、考えましょう。

- 妹は　走るのが　たいへん　おそい。
- 彼は　じつに　まじめな　少年です。
- 昨夜から　雨が　ザアザアと　降っている。
- 夜が　明けて　やがて　東の　空に　太陽が　登ってきた。

連体詞 ①

名詞(めいし)や代名詞(だいめいし)を修しょくし、あとにどのような名詞(めいし)がきても形が変わらないのが連体詞(れんたいし)です。

「あの子」「あらゆる問題」の「あの」「あらゆる」は連体詞(れんたいし)です。

- この絵はとてもすばらしい。　「絵」を修しょく
- 大きな木がある。　「木」を修しょく
- あらゆる困難(こんなん)に立ち向かう。　「困難(こんなん)」を修しょく

連体詞②

連体詞(れんたいし)を形のうえで分けて覚えましょう。

- 「～の」の形のもの

  この人　あの人　その人　どの人

- 「～な」の形のもの

  大きな人小さな人　おかしな人　いろんな人

- 「～た・～だ」の形のもの

  たいしたもの　とんだ災難(さいなん)

- 「～る」の形のもの

  ある日　来(き)たる日　あらゆる仕事いかなる困難(こんなん)

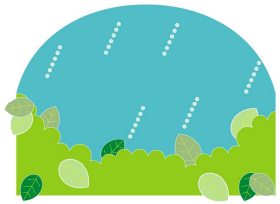
連体詞 ③

れんたい し
連体詞がどの言葉を修しょくしているか、考えましょう。

- 机の　上に　大きな　ねこが　いる。
- 昨日の　今日では　たいした　変化は　ない。
- これは　日本の　ある　所で　起こった　出来事だ。
- その　本は　私が　探して　いた　ものです。

接続詞①

言葉と言葉、文と文をつなぐ働きをする言葉を接続詞(せつぞくし)といいます。
接続詞(せつぞくし)は形が変わることはありません。



- 雨が降(ふ)ってきた。だから、外出はやめよう。
- 熱があった。けれども学校へ行った。
- えんぴつまたはペンを持ってきてください。
- ごちそうになり、そのうえ、おみやげまでいただいた。

接続詞②

いろいろな接続詞（せつぞくし）を覚えましょう。

- ぼくはいっしょうけんめい勉強した。それで、百点が取れた。

- 雨がふった。でも、すぐやんで日がさしてきた。
- みんなそろったね。では、そろそろ出かけようか。
- 駅から南へ歩いて行った。すると、見覚えのある所に出た。

接続詞③

接続詞（せつぞくし）がどのような意味でつなぐ働きをしているか、考えましょう。

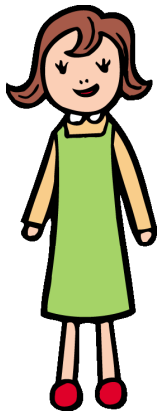
- この店は安くて、しかも、おいしい。
  前のことがらにつけ加える。
- みんなで力を合わせた。だから、成功した。
  前のことがらを原因・理由とし、あとに結果となることがらがくる。（順接）
- 学校およびその付近で写生をしなさい。
  前とあとのことがらを同列にならべる。
- 言葉のきまり、つまり文法はそんなにむずかしくない。
  前のことがらについて説明する。
- よく注意していた。けれども、事故にあった。
  前のことがらと反対のことをいう。（逆接）

助詞 ①

「それはぼくのです。」という文で、「は」「の」をとってしまうと、「それ」と「ぼく」の関係がわからなくなってしまいます。

このように、いろいろな言葉にくっついて、言葉と言葉の関係をはっきりさせる言葉を助詞（じょし）といいます。

助詞（じょし）は形が変わることはありません。



- 向こうに母がいます。
- 君もここで働いているのですか。
- 台風や大雨のような災害で、農作物がとれない。

助詞 ②

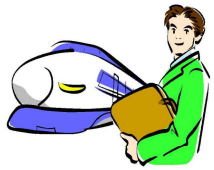
いろいろな助詞（じょし）を覚えましょう。

- この本はとてもおもしろい。
- 今日、テストがある。
- 明日、あの有名な富士山に登る。
- 君も行きますか。

助詞③

助詞（じょし）がどのような意味を表すか、考えましょう。

- 校庭でサッカーをした。　＜場所を示す＞
- 新幹線で、大阪（おおさか）へ行く。　＜方向・場所を示す＞



- 雨がふれば、遠足は中止だ。　＜仮定・条件を示す＞
- 君こそ学級委員にふさわしい人物だ。＜意味を強める＞
- これは何という花ですか。　＜質問する＞

- きのうは、どれぐらい勉強しましたか。＜およその量を示す＞

助詞④

じょし
助詞にはいろいろな種類があります。

- 学校の前を、川が流れている。　＜主語を示す＞
- この飛行機は、紙でできている。　＜材料を示す＞
- 地図がないので、道がわからない。　＜原因・理由を示す＞
- 妹は、勉強ばかりしていて、あまり遊ばない。＜それと限る＞
- わたしは、母と買い物に行った。　＜動作の相手を示す＞

助動詞 ①

「サッカーをしない」の「ない」は、「する」という動作を打ち消す働きをしています。

このように、ほかの言葉にくっついて、意味をそえる働きをする言葉を助動詞（じょどうし）といいます。

助動詞（じょどうし）は、あとにほかの言葉が続くと、形が変わります。

- ぼくが行きます。
- きのうは寒かった。
- ぼくは去年、五年生だった。
- 学級委員に選ばれる。

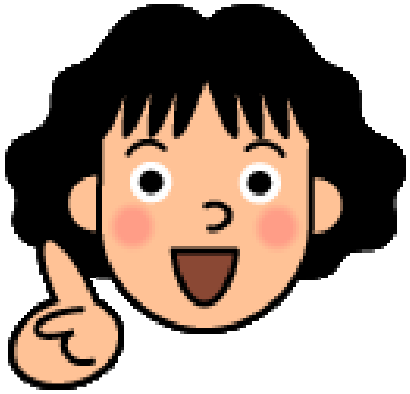
助動詞②

助動詞(じょどうし)には、いろいろな種類があります。

- 買い物に行かせる。
  家に来させる。
- 父にしかられる。
  道をたずねられる。
- ぼくは行かない。
- いっしょに行こう。
  お手伝いしよう。
- もう食事はすんだ。
- 雨が降(お)りそうだ。
  雨が降(ふ)るそうだ。
- まるで真じゅのようだ。
- あの建物は病院らしい

助動詞③

- もう決してやるまい。
- また旅行したい。
- わたしもまいります。
- これはさくらの木だ。
- ぼくは中学生です。



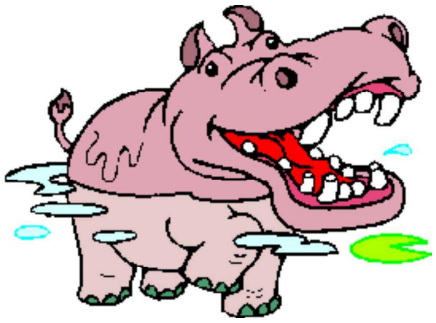
助動詞④

文の中で用いられている助動詞(じょどうし)に気をつけましょう。

- 飼育係となって三十年、カバとのつき合いは、うちの家内とのつき合いより長い。

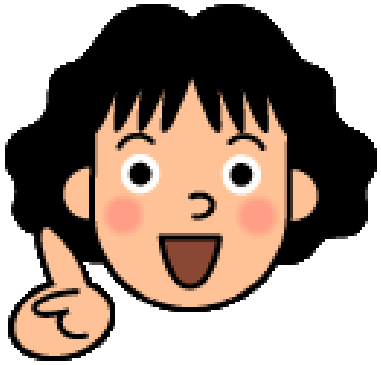
  いつもおどかされ、教えられ、新しい発見の連続だった。

- 大きな体がすっぽりさくの中に入ってしまうには何日もかかるらしい。デカオもこんなふうにして捕(と)らえられたのだが、同じようなことが動物園で起こった。



助動詞⑤

助動詞(じょどうし)が、前の言葉にどのような意味を加えるか、考えましょう。



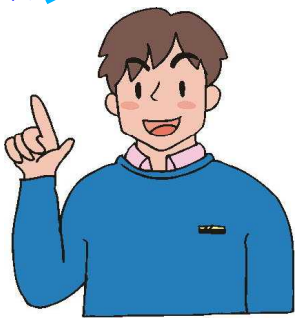
- 話したいことがある。（～したい）希望
- こんなに覚えられるかな。（～できる）可能
- 雨が少しも降(ふ)らない。（そういうことがない）打ち消し
- きのう、山へ登った。（すでに、過ぎ去ったこと）過去
- 私(わたし)にもできます。（ふつうの言い方だと「できる」）ていねい
- 人ちがいだったらしい。〔手がかりをもとに推(お)しはかる〕推定(すいてい)

助動詞⑥

「そうだ」という助動詞(じょどうし)には、二つの意味があります。
どちらの意味か、区別できるようにしましょう。

○　人から聞いたことを伝えるときに使う〔伝聞(でんぶん)〕

- 明日、おじさんが家に来るそうだ。
- 富士山頂(さんちょう)に雪が降(ふ)ったそうだ。



○　そのように見える、という様子を表す〔様態(ようたい)〕

- この本は、かなりおもしろそうだ。
- この川は浅いから、歩いて渡(わた)れそうだ。

助動詞 ⑦

「れる」「られる」という助動詞(じょどうし)には、いくつかの意味があります。
それぞれの意味を正しく区別できるようにしましょう。

○　人や物が、ほかからある動作や作用を受けることを表す。(受け身)

- あの人は、みんなから愛される。
- 顔をじろじろと見られる。

○　相手の動作をうやまうことを表す。(尊敬(そんけい))

- 先生が言われることは正しい。
- 会長さんが来られる。

助動詞 ⑧

○　「～することができる」ということを表す。(可能)

- このきのこは食べれる。
- この問題なら、すぐ答えられる。

助動詞 ⑨

「せる」「させる」の使いかたを覚えましょう。

「せる」「させる」は、ほかのものに、ある行いや動作をさせるという意味を表します。(使役(しえき))

ふつうの言い方	使役(しえき)の言い方
・ 薬を飲む。	・ 子どもに薬を飲ませる。
・ 荷物を持ってくる。	・ 弟に荷物を持ってこさせる。

★ 「……に、……をさせる」という言い方になります。